



暗闇の

仙台空港に届いた

医薬品6トン

地震発生直後からライフラインがストップし、確かな被害状況を把握することもできないなか、宮城県医師会は直ちに救援活動を開始しました。3月18日、ようやく県内すべての郡市医師会と連絡がとれ、医薬品の不足が喫緊の課題であることが分かりました。

日本医師会に要請したところ、翌日米軍機で医薬品6トンが仙台空港に届けられることに。自衛隊や警察の方々と医薬品の到着を待ちわびた記憶は生涯消えることはないでしょう。

震災から5年が経ちましたが、震災前と同程度の診療ができている県内の医療機関はまだ半数です。県医師会は震災の経験を活かし、医療機関復興のための取り組みや「JMAT宮城」「みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会(MMWIN)」の結成など、未来を見据えた医療体制の構築を進めています。



宮城県医師会 会長

嘉 数 研 二